

12月12日(火)

神様ご自身が喜んで

聖書朗読 創世記 1:14~19

神は仰せられた。「光る物が天の天空にあって、昼と夜とを区別せよ。しるしのため、季節のため、日のため、年のためにあれ。」
創 1:14

私は祈る時たいいてい、空気とか水とか食べ物とか住む所とか、それがなければ生きて行けないようなものを与えてくださってありがとうございます、と神様に感謝します。本当にありがたいと思います。神様に対して犯してしまった自分の罪のあれこれを考えると、どうして神様は変わらず、私にこんなに多くの恵みをくださるのかと不思議に思います。

今日の聖句には、神様のご性質が垣間見(かいまみ)られます。創造のみわざの第一日目に、神様はすでに光を造られ、光とやみとを区別されました。生きて行くにあたって、あるいは日や年を数えるのには、それで十分だったでしょう。それなのにどうして神様は、わざわざ丸一日使って、太陽や月や星を造られたのでしょうか。神様は、ご自分の子どもたち、つまり私たちに、素敵な贈り物をするのを喜んでおられたのです。

神様はすでに、食べてはならないと命じておいた木の実をエバが食べる事、カインが妬みからアベルを殺す事、民が偶像礼拝に走る事、預言者たちが殺害される事、愛する御子イエス様が責めさいなまれ虐殺される事、私がしょっちゅう神様に逆らって裏切ってしまう事を、ご存じでした。

それなのに神様は、まるで豚に真珠を投げるがごとく(*訳注1) 私たちに光とやみだけではなく、太陽、月、すばる座、オリオン座を始めとする、あらゆる天上の壮大な星々を与えてくださいました>(*訳注1:『聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げはいけません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょうから。』マタイ 7:6)『そのような知識は私にとって あまりにも不思議』です。(訳注2:詩篇 139:6a)

こんなにもふさわしくない者に、神様がこれほどのことをしてくださるなんて、私はいったい何者なのでしょう。ご自身の喜びのために、恵みに恵みを注いでくださる神様に感謝します。

讃美歌 142

祈り お父様、あなたがなぜこんなにも愛してくださるのかわかりません。あなたの愛は理解できなくても、残りの生涯を、できる限りの方法で、あなたを喜ばすように生きたいと思えます。イエス様のお名前によって。アーメン。

ドゥルー・ベイカー
ノース カロライナ州 ルイスヴィル

12月13日(水)

私は何者でしょう？

聖書朗読 創世記 1:26~31

神である主は土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった。
創 2:7

人々は時に自己イメージとたたかい、真の自分と折り合いをつけようとします。どうやらこの問題は増大しているようです。私たちの自尊心や自己概念は、この世にある多くの物に揺るがせられがちです。デジタル時代にあっては間違いなく、会ってはいても個人的には知らない人たちと自分を比較する時、自分の方が不適格だと感じる能力が増大しました。

神様を信じる者にとっては、これは大した問題ではありません。創世記の最初の1・2章で、私たちが何者であるか、どのようにして形造られ生きものになったのかが語られているからです。人は神様に特別に造られたものであり、神様のかたちとして、神様に似せて造られたものであると書かれています。私たちは神様のものなのです。

私たちが何者であるかを理解することは、周囲の世界との関係や、私たちを造ってくださった神様との関係を理解するための出発点です。だれでも私たちの内には皆、神様がいらっしゃるのです。このことを無視して、好き勝手に人生を生きようとする人がいます。でも、クリスチャンである私たちは、この神様の御姿を他の人々に表すように生きたいと思えます。あなたを創造された神様に自信を持ちましょう。あなたは神様のもので、神様の造られるものは素晴らしいのです。

讃美歌 90

祈り お父様、私たちが何者であるかを知ることができますように。創造者である、あなたのかたちとして造られたことを覚えさせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

フィリップ・アイクマン
サウス カロライナ州 アーモ



ミケランジェロ「アダム」の創造」

12月14日(木)

キリストのかおり

聖書朗読 創世記 8：13～22

しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってください。私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。
コリントⅡ 2：14～15

私は香水やろうそくの匂いを嗅ぐのが好きです。昔、観光客に人気の小さな街を訪ねて、良い香りに誘われて、田舎の店に入って行ったことがあります。そこで薬草茶のティー・バッグがびっしり詰まっている大きな籠(かご)を見つけました。その刺激臭に慣れてくると、子どもの頃を思い出しました。少なくとも40年はその匂いを嗅いでいませんでした。冬の寒い晩、そのお茶を家族で飲んだものでした。もちろん、我慢できずに一袋買いました。家に帰る車の中で、お茶の匂いがかかなり強烈でした。

母がそのお茶が大好きなのを知っていたので、ラップに包んで大きな缶に入れました。それだけ周到に梱包しても、匂いはまだ強過ぎました。階下のクローゼット中匂いました。ドアを開けると、強烈な匂いが溢れ出しました。お茶の箱を発送し終わった時には、ホッとしました。

この出来事を通して、私たちがあらゆる人々の中で、かぐわしいキリストのかおりなのだという聖書の箇所を思い出しました。さて、私はキリストのかおりを放っているでしょうか。または、強烈な別の臭いを周りの方々に放っていたりはしていませんか。私たちの人生が、まわりの人々に影響を与えるような恵みと希望に満ちたものでありますように。

聖歌 521

祈り お父様、私たちのあらゆる行いにおいて、あなたのご栄光をたたえることができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。



キャサ・ウィンザー
カリフォルニア州 サン ディエゴ



12月15日(金)

医学書に載る出産

聖書朗読 創世記 21：1～8

それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女が身ごもっている。そして、男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。
イザヤ 7：14

この出産は医学書に載るようなものでした。女が結婚して子どもが生まれないのは、自分にも家族にも恥だという時代に、サラは結婚してからずっと、子どもを産むことができませんでした。今や彼女は妊娠可能年齢を何十年も過ぎていました。それなのに、主は彼女の人生に介入されました。奇跡的に、91歳という年齢で、予想に反して、彼女はイサクを産み、母となりました。イサクとは“笑う”という意味です。

最後に笑ったのは誰でしょう。サラが笑いました。アブラハムも笑いました。でも、最後に笑ったのは神様でした。神様は、サラの夫アブラハムに最初に知らせた時から1年後に、サラには男の子ができているとおっしゃいました。それに対してサラは笑いましたが、神様は、主に不可能なことがあろうかと言われました。神様はただ、サラが子を産むことができるように、サラの体内時計を数年巻き戻しさえすれば良かったのです。

私たちは皆、明らかに勝ち目のない事態に直面します。私たちに、失業、車、事故、重い病などの障壁を乗り越えることはできません。ありがたいことに、私たちにとって不可能なことでも、主にとっては不可能ではありません。神様は今でも世界を支配しておられます。病を癒してください。生活に必要な物を与えてください。私たちのもとに来てくださいます。奇跡的に誕生された御子イエス様によって清めてくださいます。

讃美歌 115

祈り お父様、あなたの目的を果たすために、私たちの人生に介入してください。ありがとうございます。イエス様の御名によりて。アーメン。



グローバー・シップ

12月16日(土)

なぜ従うのか

聖書朗読 創世記 35:1~7

そうして私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこで、私の苦難の日に私に答え、私の歩いた道に、いつも私とともにおられた神に祭壇を築こう。

創世記 35:3

神様がヤコブに「立ってベテルに上り、そこに住みなさい。」と仰せられた時、彼は恐る恐るではなく、自信をもって従いました。ヤコブの確信は何に基づいていたのでしょうか。

ヤコブは、神様が苦難の日に彼に答えてくださったことを覚えていました。神様は私たちが窮地から救ってくださるかもしれないし、私たちが耐え抜いている傍で寄り添ってくださるかもしれません。他の方法では学べなかったであろうことを、苦難を通して学ばせてくださるかもしれないし、私たちを通して働かれて、他の人々が神様をもっとはっきりと見ることができるようにされるかもしれません。とにかく、神様はいつも答えてくださいます。

ヤコブは、神様が、彼の歩いた道に、いつもともにおられたことを覚えていました。私たちは神様の方法をつねに理解できるのでしょうか。できません。神様が教えようとされている教訓がいつもわかるのでしょうか。わかりません。いつでも神様に信頼することができるのでしょうか。絶対にできます！

毎日、どこにいても、私たちは神様の御前で生きています。神様は、私たちの叫びを聞き、私たちの必要をご存じです。そういう素晴らしい理由があるから、神様に信頼し、お従いするのです。神様が呼ばれた時、神様が私たちを導かれる先へどこへでも行きましょう。

讃美歌 268

祈り 神様、あなたこそ素晴らしいお方です。私たちの信仰を増し、あなたのお導きに素直に従えるように助けてください。イエス様のお名前によって。
アーメン。

アンディ・ベイカー
テネシー州 フランクリン

12月17日(日)

どのように死ぬべきか

聖書朗読 創世記 49:33

もし生きるなら、主のために生き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。ローマ 14:8

ヤコブは『息絶えて、自分の民に加えられた。』説得力のある言葉で描かれた光景です。聖書には、死を描写する表現がたくさんあります。『自分の民に加えられた』(訳注:創 49:33)、『霊を渡された』(訳注:マタイ 27:50)、『この幕屋を脱ぎ捨てる』(訳注:ペテロⅡ 1:14)、『草の花のように過ぎ去って行く』(訳注:ヤコブ 1:10)、『外なる人は衰えても』(訳注:コリントⅡ 4:16)、『沈黙へ下る』(訳注:詩 115:17)、『帰らぬ旅路につく』(訳注:ヨブ 16:12)、『たましいが取り去られる』(訳注:ルカ 12:20)、『(あなたの先祖たちとともに)眠る』(訳注:サムエルⅡ 7:12)、『地面にこぼれて、もう集めることのできない水』(訳注:サムエルⅡ 14:14)、『世を去る』(訳注:ピリピ 1:23)、『ちりに帰る』(訳注:創 3:19)等々です。

聖書のどの表現を選んでもかまいません。重大なのは“私はどのように死ぬべきか”という問題です。寝ている間とか、自動車事故でとか、病院でとかいう、死に方を言っているのではありません。信仰に関して、どのように死んだらよいのかということです。救いを確信して安んじているのでしょうか。もちろん、遺言書を書いたり、遺産の処理方法を決めたりというような実際的なことは準備することができます。でも、私は、生死を分ける決定的なことを考えたいのです。自信を持って、以下の言葉が言えるように練習したいのです。『私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。』(テモテⅡ 1:12)

『私が神の御子を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。』(ヨハネⅠ 5:13)

召される日、何が起るにしても、うまく行きますようにと祈る必要はありません。神様が、イエス様にある永遠のいのちを約束してくださっていることを信じています。たぶんではなく、絶対に！

聖歌 529

祈り 聖なるお父様、主にあつて死ぬ人たちが祝福されることを、あなたの子どもとして喜び理解できますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

ボブ・マイズ
テキサス州 ラボック